

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192500476		
法人名	有限会社アートライフ		
事業所名	あおぞら山口		
所在地	埼玉県所沢市山口2584		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和2年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染拡大防止に十分注意しながら、ボランティアの方が作って下さった野菜を利用者様と一緒に収穫をし、下ごしらえや調理をして召し上がっていただいています。
筋力が低下しないように、毎日体操、歩行訓練を一緒に行っています。
天気が良い日は、前庭を散歩して、近所の方とのふれあいを持てるようにしています。
地域密着型なので、自治会、地域包括との連携を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・コロナ禍の中、管理者はじめ職員は、利用者が毎日楽しく生きがいを持てるように暮らしていくにはどうしたらよいかを常に考え、「温泉の日」を設けるなど日常生活に潤いや喜びを感じていただける支援に取り組まれている。
・運営推進会議は、感染症予防対策上、開催できない状況ではあるが、あおぞら臨時便りを作成し家族に送付をされたり、画像配信や電話で利用者の様子を伝えられている。
・目標達成計画の達成状況については、研修を充実しe-ラーニングを取り入れるなど、職員のレベルアップや育成にも取り組まれていること、災害対策においては「7日間を生き延びよう」の冊子をもとに、ボランティアと合同訓練が実施されるなど、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○ 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と交流を図り、地域の方と行事、野菜の収穫を楽しんでいる。 防災、防犯に関して地域住民の協力の元、力を入れている。	職員は、利用者一人一人とコミュニケーションを取りながら、日常生活を穏やかに楽しみの持てる暮らしが継続できるように支援をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事に参加し、利用者や地域の人と一緒に楽しんでいる。 散歩の時近所の方と話をし、保育園児と中学生の来訪の時等。	コロナ禍により面会やボランティアの訪問が困難な状況ではあるが、畑のボランティアとは常に行き来ができており、自治会とはあおぞら通信を通して幅広い情報交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症ネットワーク模擬訓練に参加し、地域住民と共に認知症行方不明者の捜索活動を行う。 中学生の職場体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では、日常の様子、家族の思いや地域の方との理解、内容を話し合い会議で取り上げた検討事項などを、欠席者にも議事録を送付し報告している。	コロナ禍により、市から運営推進会議は中止するよう通知がきているため、あおぞら通信のほかに、あおぞら臨時便りを作成し、市からの通知とともに参加者に送付をされている。また、今後はラインを使用した配信で事業所全体の様子をお知らせしたいと検討をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者が参加し意見を頂いている。 アドバイスや紹介、指導をして頂き安心、質の向上に向け相談しやすい環境になっている。	市からは次亜塩素酸ナトリウムの作り方や受診の目安、「7日間を生き延びよう」という防災に関する通知などいただいたり、市に出向いた時には事業所の状況を伝えられるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯や離接事故のため日常施錠している。 夜間転落防止の為ベッド柵一本を使用の方がおり家族の理解を得ている。 拘束しない理念を職員全員共有している。	全体会議で、転倒の再発防止について検討をされている。利用者の心身状態を受容し、薬の副作用や認知症状の進行など周辺リスクを減らすことに努め、個別の手厚いケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣、排泄、入浴時体のチェックを行い、朝礼と会議で職員で話し合い最善の注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、職員会議での利用者様の課題に沿って、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族とご本人様の見学をして頂き、納得されて入居いただけるようお話しして理解を図る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議に出席されるご家族様など意見交換を行えるが、欠席される方に於いては、後日面会、電話にて情報交換を行い意見箱を置き対応している。	傾聴することで利用者の行いたいことや希望を探り、家族から聞き取られた意見・要望は申し送りノートで職員共有が図られている。コロナ禍で面会が困難な状況のため、家族へは画像配信や電話で利用者の様子を伝えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、職員会議で意見を出し合い、意見、要望を管理者、代表者へと報告し改善される	職員の提案で感染症を拡大させないための着脱方法や緊急時対応としてAED操作研修が実施されている。会議への出席率も高く、備品類の購入なども即、取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が研修に参加し、向上心を持ち働いている旨を代表者に報告され、処遇改善が支給されている。 有休消化、インフル予防接種、健康診断の実施をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	休日の利用行いレベルアップのために参加する職員 研修資料の掲示で毎日の職場体験にて学び実感できる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事例勉強会に参加、他のGHの見学、スタッフとの交流等入居希望待機者の情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネや相談員を通じ情報を頂、実調にて利用者と面談し、本人の思いや困っている事等状況を十分に把握し、信頼関係作りを心掛け、職員全体で安心出来る生活を送って頂けるように、話し合い細かい打ち合わせに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みの相談時点から、本人の生活、家族の心理など配慮しながら解消できるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の現状を把握し、即入居となりづらい場合は、担当ケアマネや地域包括支援センターに連携を取り、他の施設を紹介し現在の本人の生活を支える為の支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事やこだわりを尊重し、常に本人と共同しながら穏やかな生活が送れるよう見守り、出来た時は共に喜び合えるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の利用者の様子や気付きの情報共有に努め、職員の対応や思いを伝え、家族の思いと同様の支援に取り組み、より多くの家族に来訪して頂くよう語り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活習慣を尊重し、馴染みになっている近所の方、親戚の方、昔の友人、同僚の来訪を歓迎している。 法事、お墓参り等を通して継続的に社会と交流を持ち続けられる支援を心掛けている。	コロナ禍で面会は禁止されているが、知人から馴染みの品が届けられたり、利用者の得意なことを教えあうなど利用者同士の絆が深められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での利用者同士の関係について職員は情報を把握しており、潤滑油となるよう働きかけ、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方には、職員が移転先の施設、病院等へ面会に行ったり、家族からの相談に乗っています。 サービス終了後も、郵便物の転送等引き続き可能な支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、見守り、傾聴会話に努め、何をしたいか、居場所があるかを把握するようにしている。意思疎通の困難な方には、筆談や家族と関係者から情報を頂く等その人の思いに寄り添う努力を心掛けています。	利用者をありのまま受け止め、好みや関心ごと、できることなどを把握し気持ちを汲み取られている。その結果、以前の施設では全然笑わなかった利用者がにこやかな笑顔を見せるようになるなど効果がもたらされている。	コロナ禍の中で、利用者が楽しく気持ちよく過ごす方法を模索されています。理念にある生きがいを持てる取り組みにより一層期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談階で、本人と家族、ケアマネに利用者様の生活歴やサービス利用の経過等を聞き、その人の個性、環境の把握に努め、職員全員で情報を共有し、本人の意向に沿えるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタル、食事、排泄チェック表や申し送りにて、その人の生活、心理面等の把握に努め、出来る事を職員全員で見出し、小さい事でも共に行い、生甲斐と自信につなげて行けるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向も鑑み、1日も早くホームに馴染み、居場所の確保が出来るように関係者と意見交換し、アセスメント、介護計画を作成。毎月モニタリング、必要時にカンファレンスを行っている。	日常を穏やかに楽しみのある日々を過ごせるように、転倒事故の再発防止策やできることに視点を当てた介護計画が作成されている。家族には電話で詳細に説明され、合意を得、適宜、見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化に気付いた時、記録、報告、申し送りを必ず行っている。 本人、家族の要望を聞き、担当者で話し合い、細目に記録、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診、受診は提携しているクリニックで行うが、専門診療の必要な方、入院の必要な方には、関係病院へ受診できるように臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や運営推進会議を通し、自治会、民生委員、ボランティア、消防と連携を取っている。今年度はコロナ過で一時中断してはいるが、地域の方々との触れ合いにより、より自宅に近い生活が送れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、契約時に説明、同意を得ている。他専門医の受診が必要な時は、原則家族対応であるが、対応が困難な場合や緊急時などには、職員が同行することもある。	法人の医療機関が充実しており、緊急時以外は利用者全員が訪問診療を利用されている。精神科の先生には利用者の行動を見ていただき、処方や対応方法を相談されたり、薬剤師とも連携し、連絡ノートで共有をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時(Dr)の看護師同席又、別に定期的に訪問看護を行っており、個別の相談が来ている。往診時に薬剤師も同席し投薬の質問にも応じて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時による本人のストレス軽減の為、病院側に情報を提供し、入院先の相談員とも情報を交換している。コロナ過では面会にも行かれないが出来る限り家族と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した時の対応は、契約時に説明している、重度化した時や終末期に、本人がより良く過ごせるよう、出来る事と出来ない事を見極め、主治医看護師と共に支援している	終末期の利用者だけに注意を集中させるのではなく全体を見ることや、e-ラーニングで職員のスキルアップを図り、利用者、家族の希望を第一に考え、都度、チームで検討し支援をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命講習を受けている。AEDを設置し、使用法の資料を事務室に掲示している。体調の急変や事故発生時に備え、職員の誰もが対応できるよう、定期的に勉強会、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会、地域住民の協力で災害時の利用者の救出、避難時の自治会館の使用、非常食使用の約束を得ている、又消防署や地域住民の協力を得て消防訓練を行っている。	コロナ禍で消防訓練が難しい中でも、ボランティアの協力を得て、夜間を想定した避難訓練が実施されている。簡易トイレやヘルメット、発電機など備蓄も用意され、今後は自治会と協力し、避難訓練後に炊き出しを行いたいと検討をされている。	他法人が被災したことを教訓に様々な取り組みを検討されています。災害時に一致団結した活動が行えるように顔の見える関係がより深められることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴会話を心掛け、利用者一人一人の気持ちを理解し、気持ち良く生活出来るようにしている。	利用者をよく見て、ひとりひとりのペースを大切に支援をされている。1:1で話を聴かれたり、声掛けの仕方を工夫されるなど、個別対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活、会話の中で思いや希望を聞き取れるよう、声掛けを変え気持ちよく生活出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、利用者様一人一人にあったペースで生活出来るように支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身だしなみの清潔を心掛け利用者様が日々喜んでいただけるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜の収穫や、下ごしらえ、調理を職員と一緒にしています。 一緒に盛り付けを行い、下膳や食器拭きを手伝って頂いています。	食事を配食に変更されたことで利用者と接する時間が多くなり、一緒に散らし寿司やコロケ、お好み焼き、また、季節の果物を取り入れたデザート作りなど、楽しい時間を共有されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の摂取についてチェック表を職員全員が確認して、水分制限のある利用者様には、1日水分の合計量を超えないように、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして、見守り、又は介助を行っています。 入眠前には、義歯を預かり、洗浄しています。 コロナウィルス感染防止の為、月1回歯科のDr.に口腔ケアの往診に来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録で排泄チェックを行い、トイレ誘導、排泄の声掛けをすることによって、オムツの使用量が減っている。	水分摂取量や排泄回数だけでなく形状なども細かくチェックされ、利用者の身体状態を把握されている。また、タイミングの良い声かけでパッド量が減るなどよい効果をもたらせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日身体を動かす動作(体操)を行い水分補給、食事には献立表を用意し栄養バランスを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を利用者の気分に合わせて行っている。入浴の時間、曜日を考えて支援している。	1:1の入浴はいろいろな話が聴ける時間で和やかに入浴支援が行われている。日頃は個浴だが、「温泉の日」を設け、白濁湯につかった後、温泉施設のような食事を提供されるなど生活を楽しまれる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間3回の巡回を職員が見回りしている。日中居室にプライベートとして過ごされている利用者の方に安心して頂くように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時間職員2名により名前、日付を確認し誤薬が起きないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の得意なことを理解し、日々の生活の楽しみとして家事の手伝いを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を考えて外出先の工夫をする支援をしている。遠出のドライブで景色や外食を楽しんで頂く。	職員は、利用者に気持ちがいいと言われてもらいたいとの思いから、コロナ禍の中でも工夫しながら外出支援に取り組まれている。個別で畑に行き収穫したり、桃の花を見たり、外気に触れる機会と季節感を大事にされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様がお財布を持つ事で、安心して過ごせる方は、ご家族様と話し合い一部の方が所持している。他の方に関しては、お小遣いとして事務所の金庫に保管しています。職員と一緒に買い物に行くときに使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望に応じいつでも事務所の電話にて、ご家族様、友人との通話ができる。手紙等は、必ずご本人様に渡している。返信を職員と作成して、家族、友人へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、廊下に湿、温度計を設置。温度、湿度の管理をし、採光、風通しも良くするようにしている。整理整頓をして清潔感を保つ。季節の花、写真を飾ったりして、生活に潤いが持てる支援を心掛けている。	廊下にはイベント時や消防訓練時の写真、中学生の職場体験時の礼状が飾られている。明るいリビングでは、テレビの高齢者体操に合わせて手拍子や歌を口ずさんでいる利用者もおられ、気持ちよく過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで他利用者様とお話されたりテレビを見て過ごされています。気の合う利用者様同士で居室で過ごされたり自由に過ごされています。庭の椅子に座りひなたぼっこをのんびりと休息できる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が長年愛用していた家具、小物等を持ち込んで頂いて思い出の品、写真、手作りの作品を飾り、昔と変わらない落ち着いた生活を送って頂けるように心掛けています。	日差しが十分に差し込まれる居室は、ぬいぐるみがたくさん飾られていたり、ベッドの位置も様々で、布団の方もおられるなど利用者の好みや心身状態を反映した作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には極力物を置かないよう、廊下、トイレ、浴室、脱衣所にて、手すりを付けてあり脚力が落ちている利用者様の出来る限りの歩行を促し、出来る事をさりげなく見守りし、傾聴会話をしご本人様の自身と自立につながるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: あおぞら山口

目標達成計画

作成日: 令和 2年 11月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	48	コロナ禍において利用者が楽しく気持ちよく過ごせる方法を模索しているが、今後どのようにしたらよいか。	日常生活に潤いや喜びを感じていただける支援に取り組んでいく。	季節感を感じていただけるよう、畑の野菜を収穫し、調理、食事をしていただいたり、季節ならではの果物を提供し季節を感じていただく。	6ヶ月
2	4	運営推進会議が感染防止対策上開催できず、地域や行政、消防等連携が取りづらくなっている。	行事開催に限らず、日々情報提供や施設内での状況を通知することにより、閉ざされた環境にならないようにする。	通知文書の配布や「あおぞら便り」を用いて自治会や畑のボランティア、行政、消防等感染終息まで従来と違った関わりを持つ。	6ヶ月
3	20	コロナ禍でご家族様の面会をお断りしている中、ご利用者様の気持ちを受容したうえで、ご家族様との関わり方をどうするか。	時期がきたら面会ができるようになると、ご利用者様に伝えることで孤独を感じていただかないよう支援する。	電話や「あおぞら臨時便」を用いてご家族との関りは続けていくが、iPadを導入し動画で様子をお伝えしていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。